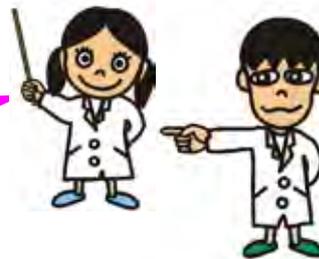


感染症に気をつけよう！



平成 25 年
[6 月号]

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント []は解説している既刊号
風しん	流行	→ 横ばい	5 月以降も流行が継続しています。下段の解説を参考にして、該当する方は主治医に相談し、 予防接種 を受けましょう。

今、気をつけたい感染症 = 風しん

詳しくは[横浜市感染症臨時情報](#)をご覧ください。

予防接種が助成されます！

横浜市内で風しんの流行が続いています。今年はずでに、昨年の総患者数の 3.5 倍を超えました。

風しんは妊婦（特に妊娠初期）が感染すると、白内障・心疾患・難聴などをもった、[先天性風しん症候群](#)の赤ちゃんが生まれる可能性があります。市内では報告はありませんが、全国では昨年 6 月からの流行以降 10 人が報告されています。（平成 22 年は報告は無く、23 年は 1 人でした。）

周囲の皆さんがワクチンを接種することが、女性と赤ちゃんを守ることになります。特に、流行の中心である [20～40 代男性の予防接種が重要](#)です。麻しん予防にも役立つ [麻しん・風しん混合\(MR\)ワクチン](#)をお勧めしています。

自己負担 3,000 円で接種できます！

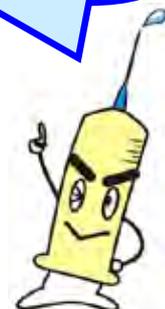
横浜市では緊急対策を実施しています。

実施期間： 9 月 30 日まで

対象者：19 歳以上の横浜市民で

「妊娠を予定・希望している女性」「妊娠している女性の夫」

詳しくは、保健所ホームページ「[緊急風しん対策について](#)」をご覧ください。



この資料は、[横浜市感染症発生動向調査委員会報告 5 月期の市民向け版](#)です。ホームページの[感染症発生状況](#)や[啓発用パンフレット](#)もご利用ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】